



道徳小治政

土岐文庫
文庫17
W45
4



からんや三つ子を集中に古哥れ異を注せし他書ハとやよりけ前後の
哥をも或云一云かど書しと人麻呂集をば皆柿本三と注せし此集は中
ちしぬゆゑなりかき此を七より下の哥集ともよわむい後よほけ
作者ちの巻子添しもの

○此上下の巻は今本よ正述心緒寄物陳思問答羈旅譬喻などの標あ
ふらん万呂集のかりりて後の入彼集ふよりて注せし物らん今これ除つ
九此巻の多甚多なる其教をいくのなり一採人麻呂集と相似れ
好る此此上下をも標を加へし古今歌集もこれに志部ハ教とあり
あしよりの所は標なきハ公の沖集とて居りやありと彼人麻呂集也

本さし標ありたり人々奈良人のかしあまきと書ちし一財が書ん
人麻呂のあかしく天竺のいふとまてむだに古事古言のしして世よ
及ぶ人ちくちりるしん高き才のましくしとさやのあまをば他國
あはすのいふむさしりちけりいふいふせんわいしんかしん人のわいし
知し一巻三巻六よのけし標なきとあしせよ

○或人問卷一より卷六まで二度の撰とりし同歌の再載しはふ
此答一二三六よ同哥なりたがけ四五けりまをわする其教を集れ
時前より寄管類を奉しと末よ問答の類なりしは八只言ふよ
アてく又よりもちて二所あし一唯二首まわすの乱きてあしちりし

かみりて天皇乃作
かみりて天皇乃作
かみりて天皇乃作

よのころは所々一本の迷ふも本亂もさば一本は異あつてぬ
又古今奇集よわき魚大津のころはけりて人の撰集
あしも既前集よりあしも既前集のわしもあしも萬葉の定
あつてもさしも又諸兄大津の撰もあつても大政申す
たきもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
き中もさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
よろめえあつて一既りあしもさしもさしもさしもさしも
九かきさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも



万葉集卷四之考

古今相聞歌上

足千根乃母尔障良婆 一類は千度障らし水のとらも母障らしは
又礼奈の約良乃母 又礼奈の約良乃母 又礼奈の約良乃母
良婆と云り仍も 良婆と云り仍も 良婆と云り仍も
佐波良婆と云り 佐波良婆と云り 佐波良婆と云り
この世ふけ方より 佐波良婆と云り 佐波良婆と云り
よのころは

吾妹子之吾呼送跡白細布乃袂漬左右二哭四所念
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
無用伊麻思毛吾毛事應成哉
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも

奥山之冠真木乃板戸乎押開思惠也 出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも

何將為 出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも

荏薦能一重叫敷而紗眠友君共宿者冷雲梨
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも

垣幡冠丹頰經君叫卒爾 儀乎て今卒尔と云り
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも

儀乎て今卒尔と云り 出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも
出来根後者
あしもさしもさしもさしもさしもさしもさしもさしも

引つきて... 或説く... 古書... 山踐の遊極... 昔... 思出乍嘆鶴鳴... 恨登思挾名盤在之可者外耳見之心者雖念... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

借字... 散頰相色者不出小文心中吾念名君... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

散頰相色者不出小文心中吾念名君... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

何のぬきそくもの

勲片念為欤比者之吾情利乃... 生戸裳名寸

將待尔到者妹之懽跡咲隸乎往而早見... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

誰此乃吾屋戸来喚足千根乃母尔所噴... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

物思吾呼... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

左不宿夜者千夜毛有十方我背子之思可悔心者不持... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

家人者路毛四美三荷... 吾背子尔直相者社名者立采事之通尔何其故... 何のぬきそくもの

鴉

まぶび... 仲哀... 此... 用... 弭... 言... 卷... 五...

カネ... ハナ... ヨモ... アリ... トモ... 吾... ココ... ガ... 吾... ココ... ハ... モ... シ...

或説ゆゑに...
の中は...
今稱...
有玉...
甲...
母...
の...
よ...

璞之寸戸我竹垣
等乃万代良夫須麻か...
和名抄子遠江...
編目

從毛
妹志所見者吾戀目八方
緒尔成及君乎之將待

吾背子我其名不謂跡玉切命者素志賜名
命を授て通上男の

凡者
誰將見鴨黒玉乃我女髮乎靡而將居
あはれぬ

面忌何有人之為物焉
言者為金津継手志念者

不相思人之故可璞之年緒長言戀將居
とまげらる

凡乃行者不念言故
人尔事痛所云

物乎

氣緒尔妹乎思念者年月之往覽別毛不所念息

足千根乃母尔不所知吾待留心者吉惠君之隨意

獨寢等
菱朽目八方
の後遊はそこちいへ編緒の...
中をた

綾席
緒尔成及君乎之將待

相見者千歳八去流否乎鴨
否与致あり
我哉然念待公難尔

菱ハ字注
乾蒲
或伝ふ...
今と...
の...
て...
け...
き...
中...

まはれ入らんもまは
れぬるはか
くをまめん
てん
我奴の約具之

此舟園東哥の末はまはれぬるはか
くをまめんてん
てん
我奴の約具之

振別之髪乎短弥
草髪尔多久盤
妹乎師曾於母布
徘徊
往箕之里尔

若草乃
吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手六

寤者相縁毛無夢谷間無見君戀尔可死
誰彼登問者將答為便乎無君之使乎還鶴鴨
不念丹到者妹之歡三跡咲牟眉曳所思鴨

或況かば南八初とて
園園の坂上郎大は
引一八かのまはれぬる
まはれぬる

妹戀吾哭涕數妙之
枕通而

枕通而

袖副所沾

源氏物語の初巻にあり
うもれいきとわい
びらわらわら

乎

念之餘者為便無三出曾行之其門乎見尔

情者千遍敷及雖念使乎將遣為便之不知久

夢耳見尚幾許恋吾者寤見者益而如何有

對面者面隱流

物柄尔 繼而

見卷能欲公壽

且戸遣乎 速莫閑味澤相目之乏流君今夜來座有

玉垂之小簀之垂簾乎持掲

寤者不眠友君者通速為

垂乳根乃母白者公毛余毛相鳥羽梨丹年可經

愛等

思篇來師 莫

忘登結之紐乃解樂念者

昨日見而今日社間吾妹兒之幾許繼而見卷之欲毛

人毛無古郷尔有人乎

愍久也君之 念兒等

...

○以上下巻の初巻に附
てし人万号ち系
ちちあま系とて六巻目
の次子別子出せんも
別まじりていふも

卷一の夏来良之と
るふかふらうま
々々しし初は徳を
ハ夏来の字まて
既らつきふと初ん
はか〜ははのまら
らふ字う〜がら
よくま〜りてふ
は〜と転ス

ヒトモナキアリニアルヒトヲ 妹が自
人毛無古郷尔有人乎 愍久也君之
念兒等

別記ハコヒニシナセリ
恋尔令死

人事之ヒトゴトノ事ハ言クシゲキ繁間ハルハ切守而モリテ相十方アソトモ八反吾上尔事ハカウヘニ
之將繁ノシゲム

里人之言縁妻乎サトヒトノコトヨズラ彼妹と彼男相与サトヒトノコトヨズラ荒垣之
外也吾將見惡有名國ヨソニヤワガニムニカラナクニ

他眼守ヒトメ君之隨尔余共尔夙興乍裳裾所沾キミガニクニ戸出のまゝわい
夜干玉之ヌバ妹之黒髪今夜毛加吾無床尔靡而宿良武イモガクロカミ

花細ハナグサ紀前波那具波辞佐久羅能梅涅ハナグサ葦垣越尔直一目相視之兒故千遍嘆津アシガキ
色出而戀者人見而應知情中之隱妻波母イロニデ

相見而者戀名草六跡人者雖云見後尔曾毛戀益家類アヒミテ
凡吾之念者如是許難御門乎退出米也母オホヨシワレシ

將念其人有哉オモヒナム鳥玉之夜晝不云吾戀渡オモヒナム

如是耳戀者可死足千根之母毛告都不止通為シカレノミ

夢西所見シカレノミ

或説ハ華の花或説ハ華の花

後其の月の後其の月の

丈夫波友之驂尔
驂ハ馬のまゝ並しりはるらば競と初る一今かふど多きと
夫ハ波友のまゝ並しりはるらば競と初る一今かふど多きと
名草溢
心毛將有我衣苦
寸

偽毛似付曾爲何時從鹿
不見人戀尔人
之死爲

情左倍奉有君尔
何物乎鴨不云言此
跡吾將竊食
女の母(男の)と云ふは出あつてと笑マシマシ母のしりて
ふおの縁はほりてを男の娘の母のいふていふてを

面忘太尔毛得爲也登
面忘と云ふはあつてをいふていふてをいふていふてをいふていふてを

手握而雖打不寒恋之奴
手握りて雖も打たれず寒く恋するの奴

希將見
今春すしあつては初ハ次の句をかちらぶと紀ハ希見此云梅豆邏志といふ
今春すしあつては初ハ次の句をかちらぶと紀ハ希見此云梅豆邏志といふ

君乎見常衣左手之執弓方之眉根搔礼
君乎見常衣左手之執弓方之眉根搔礼

人間守蘆垣越尔吾妹子乎相見之柄二事曾左太多寸
人間守蘆垣越尔吾妹子乎相見之柄二事曾左太多寸

今谷毛目莫令乏不相見而將恋年月久家真國
今谷毛目莫令乏不相見而將恋年月久家真國

長此夜乎... 面忘太尔毛... 手握而雖打不寒恋之奴... 希將見... 君乎見常衣左手之執弓方之眉根搔礼... 人間守蘆垣越尔吾妹子乎相見之柄二事曾左太多寸... 今谷毛目莫令乏不相見而將恋年月久家真國

今谷毛目莫令乏不相見而將恋年月久家真國

かててこう上の言ふかまき今ふふ家莫國とまていふかかてていふと上と
宵きくいの程もあふのり卷二の御名教皇女此所ちの別記といふのいふは縁より
の時ふ
ふ。

又一段小義之公裁之
てふまに料のま
りつて泥を思ひ放
れぬかかかきよ
附

朝宿髪吾者不梳愛君之手枕觸篆之鬼尾今本觸義之と云ふは家取
家保まきと云ふは化ふ

妻いふかかてい辞ハ觸多里志とまていふその多里の約ハ知あ
を互ハ結一いつり集中と思低志行而之といふ多き紙れま
ハヤユキテイツシカキミヲ君ハ妹アヒミトオモシコロイモゾナギヌル水葱少熱ハ訓を借の

早去而何時君乎のまう相見等念之情今曾水葱少熱

面形之忘戸在者オモスゲノワスラヘ一サバト人事茂間守不相在終字等面忘南ていづくアヂキオチ
面形を忘るも忘るはとまていふあや年中の中はま小豆鳴

男士物屋オノユジモノヤ小豆鳴とまていふあやまきあくと例下たつら終コヒツヨラム
をたつ常とかかかかちり男士物巻三よつり戀乍將居

言云者三々二田八酢四コトニイバミニニタヤスシ紀ふていふまていふまていふまていふまていふ恋云
薄事三巻上三様と云ふ言ふていふまていふまていふまていふ

小豆奈九何枉言今更小童言為流老人二四手オボキナクオテニガコトイニサラニワラハゴトスルオイビトニシテ老ていづくいづく
あつと枉津日の朴れまていづく枉無とまていづく

相見而アヒミミテ是ハ四言いづくもまていづく巻十三不相見者幾久毛不有國ていづく
めくまていづく相の上よ不とまていづくまていづく而者まていづくまていづく幾久毛不

有尔如年月所思可聞ナクアトシツキノゴトオモホユルカモモ有ル如ク年月所思可聞

丈夫登念有吾乎如是許令戀波苛者在来オモラフオモヘルワレラカクバカリコヒセシムルハカラクハアリケリ今苛を小可と
あつとまていづく

如是為乍吾待印有鴨世人皆乃常不在國カクシバワカニツシヒアラムカモヨフヒトニナノツネナラナクニ今乃のほまき
らぬまていづく

人事茂君ヒトコトナシメトキミ是と次ふ人乃号吾系の云タミツサノソカヒモヤラズワスルトモツ
纏くまていづく小ハねまていづく玉梓之使不遺忘跡思名

大原古郷オホハラフワリニサトモモ出ニイモヲオキテアワレイネカチツイレニニエコリこそハ
妹置吾稻金津夢所見乞

出出

妹置吾稻金津夢所見乞妹置吾稻金津夢所見乞

乞乞

夕去者。公來座跡待夜之名凝衣今宿不勝為使乎待之夜乃名凝

其今毛不宿夜乃大寸おホキとるとるゆゆりりふふりりハハケケ千千ににカカとと

不相思公者在良思黑玉夢不見受早宿跡アヒモハズ。キミハフルラ。シ。ヌバタノイニモミエス。ウケヒテヌレド。

石根踏夜道不行念跡妹依者忍金津毛イハネ。フミ。ヨニチ。ユカジト。オモヘレド。イモヨリテハ。シビカチツ。モ。忍ハなんの内あわす。て。並

龍きと。原。一。養。つ。み。

人事茂間守跡ヒトゴトノシゲキ。モルト。間守。アハサラ。バ。ツ。ニ。ハ。コ。ヲ。カ。ウ。ホ。オ。モ。ワ。レ。ナム。不相在終八子等候。不。相。在。終。八。子。等。面忘南

戀死後何為吾命生日社見幕欲為礼コヒシナム。ナ。ナニ。セム。ワガ。イシイケル。ヒニ。コワ。ニ。ク。ホリス。レ。

敷細枕動而シキタノニクラウキテ。ねもい。もぬまふい縁さうり。むと。れ。枕の敷くと。被が。つ。ぞ。宿不所イネ。コ。レ。

寢物念此夕急明鴨ズ。モノ。モ。フ。コ。ヨヒ。ハヤアケム。カ。モ。

不往吾ユカヌ。ワチ。漆。う。う。く。コム。ト。カ。ヨヒモ。來跡可夜夜の。み。を。よ。い。と。カ。フ。タ。テ。ダ。ア。ハ。レ。ワ。キ。モ。コ。門不開何怜吾妹子カド。タ。テ。ダ。ア。ハ。レ。ワ。キ。モ。コ。

歎歎。く。と。待筒在マチツ。ア。ラ。エ。

夢谷何鴨不所見雖所見吾鴨迷恋茂尔イレニ。ダ。ニ。ナニ。カ。モ。ニ。エ。ヌ。ニ。ユ。レ。ト。モ。ワ。レ。カ。モ。ド。フ。コ。ヒ。ノ。シ。ゲ。キ。ニ。

或本哥與津浪敷或本哥與津浪敷而耳八方恋度奈年而耳八方恋度奈年

何為而忘物吾好子丹イカニシ。テ。ワ。ス。レ。チ。キ。ミ。ユ。ニ。コ。ヒ。ニ。サ。レ。ド。ワ。ス。ラ。レ。ナ。ク。ニ。恋益跡所忘莫苦二

遠有跡公衣恋流玉梓乃里人皆尔トホク。アレ。キ。ミ。ラ。ノ。コ。ノ。レ。タ。ニ。ハ。ユ。ノ。サ。ト。ヒ。ト。ミ。ナ。ニ。君が住方の乃れ里人のいん。く。玉梓の冠様を即る。あ。う。て。い。ん。

わが恋のわが恋の吾恋八方ワレ。コ。ヒ。ン。ヤ。モ。

驗無恋毛為鹿暮去者人之手枕而將寐兒故シルシ。ナキ。コ。ヒ。ラ。モ。ス。ル。カ。ニ。フ。サ。レ。バ。ヒ。ト。ノ。チ。キ。テ。チ。ナ。ム。ニ。ユ。ニ。

百世下千代下生有目八方吾念妹乎置嘆モ。ヨ。シ。モ。チ。ヨ。シ。モ。イ。キ。テ。ア。ラ。ン。ヤ。モ。ワ。ガ。モ。フ。イ。モ。ヲ。オ。キ。テ。ナ。ガ。ム。

玉梓の里つづき
八冠様考ふりれり

をりよと女の男おり人海くまの例ぢぢぬと事巾
 まれ〜〜〜

今更君之手枕巻宿采也吾紉緒乃解都追本名。

白細布乃袖觸而從。今夜後とワカセコニワガコラクハヤムトキモナレ
 吾背子尔吾恋落波止時裳無。

夕トル毛占尔毛告有。今夜谷不来君
タケケニモウラニモシル タ〜〜〜とてハ櫓の占とてハ ヨレダニキニサヌキニ

乎何時將待。

眉根搔下言借見思有尔去家人乎。相見鶴
コエネカキシタイフカシニオモヘルユイシヘトヲ 上よ〜〜〜君あ〜〜〜 アヒミツル

鴨。或本哥眉根搔誰乎香將見跡思乍氣長恋之妹尔相鴨今一書哥眉根搔下伊布
 可之美念有之妹之容儀乎今日見都流香裳十三首ハ別あり〜〜〜或本よかく

敷栲乃枕卷而妹與吾寐夜者無而年曾經來。

奥山之真木之板戸乎音速見。妹之當乃霜上尔
オクヤニノ冠マキノイタドヲオトバヤミ 〜〜〜乃 イモガアタリノシモノウニ

宿奴。か〜〜〜と妹よ〜〜〜せん
ネヌカ〜〜〜と妹よ〜〜〜せん

足日本能。山櫻戸乎。古〜〜〜をぎ板ちれ〜〜〜
アシビキノ冠ヤニサラドヲ 古〜〜〜をぎ板ちれ〜〜〜 〜〜〜

誰留流。開置而吾待君乎。
タレカトシムル 〜〜〜 アケオキテワカニツキミヲ

月夜好三妹二相跡直道柄。吾者雖來夜其深去來。
ツキヨヨモイモニムトタラサリ 大乃此外の ワハクレドモヨグアニクニ

△ 後人の〜〜〜よよい〜
〜〜〜寄物陳思〜四字あり

朝影尔。人影ハ朝日のよ〜〜〜時えゆま〜
アサカゲニ 人影ハ朝日のよ〜〜〜時えゆま〜 ワカミハオチカラヨモミ

吾身者成辛衣。借字
ワカミハオチカラヨモミ 借字

この古〜〜〜文信と
 ち〜〜〜と〜
 より漢様織異機

杉立門の歌〜山
 信の人の心〜

らゆいりてよま
ひと下き花がら
あて十四五まはれぬら

○也乎良の也を墨き
乎と和と通ハ且その
和と字と持て字良
とす。又也乎良を
和良とする。也と乎と
和の通い。和加きと
も也乎共通ハ一集
めいんそ即弱き

○狭織のゆも右の婦
祥の次でよいつ
○誰之の之ハ誰之毛
といふ今祥と文曹
通せし誰この人
もつて

は女子の十より十四五まはれ花の影をゆるる獲とめて髪を降す十七八ま
さるるも止むゆき葉根がたつ今もて妹もまいたる人○まのづつは花つらま
且上のまも初漱女の造る本綿花ウラカミ。けいんハヤとく弱ら宇良く
のゆいりてよまひと下き花がらあて十四五まはれぬら
うら若きてよま均。○け言裏と下きもま
上いひわい。下きもま。別もま。ゆもま。咲見愠見
著四

去家之。古之冠。倭文旗帯乎。結垂。孰云人毛君者不益。
一書歌古之狭織之帶乎。結垂誰之能人毛君尔波不益。
不相友吾波不怨此枕吾等念而枕手左宿座。

結紵解日遠敷細吾木枕蘿生来

人軍向哉其枕昔生員爲也

○誰之の之ハ誰之毛
といふ今祥と文曹
通せし誰この人
もつて

夜干玉之黒髪色天。長夜叫乎床之上尔。

妹待覽蚊

真素鏡直二四妹乎不相見者我戀不止年者雖經

真十鏡手取持手朝旦見允時禁屋

將繁

里遠戀和備尔家里真十鏡面影不去夢所見社

夢所見と

劔刀身尔佩副流丈夫也戀云物乎忍金手武

劔刀諸刃之於荷去觸而所殺鴨將死

列者亦真鏡手取以
朝雖見君飽更無
とるも同あ

今昔卷とまはれ
湯とてまはれ
はとてとてとて
とてとてとてとて

今中平枕之上尔
今中平枕之上尔

今中平枕之上尔
今中平枕之上尔

今中平枕之上尔
今中平枕之上尔

下ハ軒及
將見因母鴨
の意

小墾田之。推古天皇十一年十月小墾田宮へ遷させし事書紀あり。神名式一治田神社と云ふ。

坂田乃橋之。古き地乃橋坂田と云。今本坂田と云。壊者從析將去莫恋吾妹。二年十月。

宮木引泉之追馬喚犬二。泉ハ山城相樂郡と云。立民乃。息時無恋度可聞。上の奏。真木積泉河と云。良村と云。住吉乃津守細引之浮笑緒乃。和名抄。從空延越。遠見社。東細布。曉の横をハ赤の天ノ布河。ヨコグモ。ヨコグモツアラズハ。吾恋終ハ非ぬ筋ハ。得干蚊。

目と疎良米。今日本言と云。絶跡間也。物者不念斐太人乃。古ハ近ハ飛澤國。打墨繩之直一道二。置蚊火之。余戀居久。

足日木之山田守翁。本ハ父父母の兄才貴ニ小父ト云。蓋流板目乃不合者。今ハ不合相者ト云。十寸板持。如何為跡可吾宿始兼。

十寸と借字トモ。そぎ板トモ別トモ。ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

ト下のんト付不谷トイ皮。如何為跡可吾宿始兼。

難波人葦火燎屋之酢四手雖有

煤びの頃猶と約れがまよふ意は

許増の祥也也衣の

己妻許増常日頰次吉

妹之髮

故駒

上小竹葉野之

蕩去家良思不合思者

馬音之跡孛登毛為者松陰尔出曾見鶴若君香跡

君戀寢不宿朝明誰乘流馬足音吾聞為

紅之襴引道乎

中置而妾哉將通公哉將來座

天飛也

輕乃社之齋槻

幾世及將有隱孀其毛

神名火尔

紐呂木立而

人心者間守不敢疑

天雲之八重雲隱鳴神之音尔耳八方聞度南

爭者神毛惡為

縱咲八師世副流君之惡有莫君尔

...

許増の祥也也衣の
横句にていひぬり例
ちよとがけんく吉と
留るるるるるるる
計此のいふきと計れ
の約の計を言て持
いふる

一云須藤橋河平也
いふるいふるいふる
いふるいふるいふる

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

二上尔 フタガミニ 葛下郡のかつき山のまてに矢りしるるのニツをきと二上山よりついでに國の西

も屋上乃山此 カクワツキノ 如也 ヨシケレドイモカタモトヨカ 雖惜妹之田本乎加流類比来

吾背子之振放見乍 ワガセコガ 將嘆清月夜尔雲莫田名引 ナガクランキヨキノクヨニクモナタナヒキ 柳引ハナ 言て下小曾の祥

真素鏡清月夜之湯徙去者 マコツカミキヨクツクヨノ ユツリナバ トク 由韻の通ユヅリナバ 去バをいふ

念者不止戀社益 オモヒヤニゾ コモコソ ナ 念者 オモヒヤニゾ 念者 オモヒヤニゾ 念者 オモヒヤニゾ 念者 オモヒヤニゾ

今夜之 コノヨニ 在開月夜 アリアケツクヨ 在乍 アリツクモ 公乎置者待人 キミヲオキテハ

無 ナシ 此山之嶺尔近跡 コノヤニノ 吾見鶴月之空有 ワガミルヅキノソラナル 峰トク 月ツキ 空ソラ 有ナル

戀毛為鴨 コヒモスルカモ 吾恋將居 ワガコヒコララム

烏玉乃夜渡月之湯移去者更哉妹尔 ウツクニヨワタルツキノユツリナバ 我とおまき妹が他へ移アぬる

朽綱山 クツカミヤ 豊後風土記大分川此川之源出直入 オホキガ 夕居雲轉往者 ユフ井ルクモツリナバ 今日轉と薄とと

君之服 キミガキル 三笠之山尔居雲乃立者繼流戀為鴨 ミカサノヤニニ井ルクモノタテバツガル 即又繼居つ

久堅之天飛雲尔成而然 ヒサカタノマニトガクモニナリテ 君相見落日莫死 キミミミオシヒナシニ 落表

此山といへば昔の國入のおすぢり コノ山といへば昔の國入のおすぢり

吾恋將居 ワガコヒコララム

夕居雲轉往者 ユフ井ルクモツリナバ

君相見落日莫死 キミミミオシヒナシニ

久堅之天飛雲尔成而然 ヒサカタノマニトガクモニナリテ

君相見落日莫死 キミミミオシヒナシニ

巻六 今上 巻六 今上 巻六 今上

青いけい 妹よこころいあまかつりこ帯

佐保乃内從 佐保山内 下風之吹波 下風乃吹波 還者為便胡粉歎 還者為便胡粉歎

夜衣大寸 夜二の句今わ吹れ彼とまハれの字解りぬ未ハ胡粉歎夜衣大寸とててん

級寸八師 級寸ハ師 愛八師不相君故徒尔此川瀬尔玉裳沾津とよるるここれあ之言のゆきと

不吹風故 不吹風故 玉匣開而左宿之吾其悔寸 玉匣開而左宿之吾其悔寸

窻超尔月臨照而 窻超尔月臨照而 足檜乃 足檜乃 下風 下風

吹夜者公乎之其念 吹夜者公乎之其念

河千鳥住澤上尔立霧之 河千鳥住澤上尔立霧之 市白 市白

兼名誓始而者 兼名誓始而者

吾背子之使乎待跡笠毛不着出乍其見之雨落久尔 吾背子之使乎待跡笠毛不着出乍其見之雨落久尔

辛衣 辛衣 君尔内著 君尔内著 欲見戀其晚師之雨零日乎 欲見戀其晚師之雨零日乎

彼方之 彼方之 赤土少屋尔 赤土少屋尔

斤山里 斤山里

...

...

...

...

...

毛詩傳云小雨謂霖
霖者雨之積也
塵者積之極也
古代ハ雲とよみ
巧とよみとよみ

神とよみとよみ
とよみとよみ
とよみとよみ
とよみとよみ

下ノ末ノ少屋
霖霖零
床

共所沾於身副我妹
てやうつとて

笠無登人尔者言手雨乍見
カサナシトヒトニハ
カサナシトヒトニハ

留之君我容儀志
トモリシキミガ
留之君我容儀志

所念
オモホシ
所念

妹門去過不勝都久方乃雨毛零奴可
イモカタトユキカ
妹門去過不勝都久方乃雨毛零奴可

為
キ
為

夜占問
ユラケトフ
夜占問

吾袖尔置白露乎
ワカソデニオクシラツユヲ
吾袖尔置白露乎

於公今視跡取者消管
キミニミセムト
於公今視跡取者消管

櫻麻乃苧原之下草
サクラマノラフノ
櫻麻乃苧原之下草

露有者令明而射去母者雖知
ツユアレバ
露有者令明而射去母者雖知

待不得而内者不入白細布之吾袖尔露者置奴鞞
マデカネ
待不得而内者不入白細布之吾袖尔露者置奴鞞

古今奇集

古今奇集

君待と庭耳居

此等の小説は、
らうたひのうら
おまわらうと
へんげんとい
ちりてうら
こわらうとい
はきとてい
はうたひとい
はうたひとい

打靡音黒髪も霜を並みくつゝ言わさるる相仰り、
皇后の御影もあつたは言は異ふに上下のあつたは
顔も下のあつたは
霜乃のあつたは
朝露之消安吾身。雖老又若反君乎思將待。
下のあつたは初句の
あつたは

朝露之消安吾身。雖老又若反君乎思將待。
下のあつたは初句の
あつたは

並奉しも右のあつたは
白細布乃吾袖尔露者置妹者不相猶預四手。
夜のあつたは妹が
あつたは

白細布乃吾袖尔露者置妹者不相猶預四手。
夜のあつたは妹が
あつたは

云云物者不念朝露之
如也。吾身一者君之隨意。
あつたは

夕凝霜置來。朝戸出尔甚踐而
あつたは

甚降り足の字うもの附也。
人尔所知名。
あつたは

如是許戀乍不有者朝尔日尔妹之將履地尔有申尾。
あつたは

足日木之山鳥尾乃一峯越。
あつたは

隔ててみてふも、
一目見之兒尔應恋
あつたは

鬼香。
あつたは

吾妹子尔相縁乎無駿河有不盡乃高嶺之焼管香將有。
あつたは

荒熊之住云山之師齒迫山責而雖問。
あつたは

父母のいし責つ向も通へ男の名をのこし
あつたは

妹之名毛。吾名毛立者。
あつたは

惜社布仕能高嶺之焼
あつたは

或本云君名毛妻名
毛立者惜已曾不
あつたは

山々のあつたは
あつたは
あつたは
あつたは
あつたは
あつたは
あつたは

或本云君名毛妻名
毛立者惜已曾不

乍渡。

往而見而來戀敷

今本きて「い」きと訓し、後の句ふかきと「い」の

朝香

方。古事記。其後田毘古神坐阿邪訶神名式伊勢國壹志郡阿射加神社と云

山越

尔置代宿不勝鴨

安太人乃

紀神武天皇。到吉野河之河尻時。作筥有取魚人。云名謂贊持之子。此者阿陀之

八名打度

八名八梁之石見国人。山川と云。て寒く。その水は集く。所の

枕を打つ作るとしてやま打といふ。かしてやま打の

瀬速

瀬ヲ子まりといひ。板

玉蜻。石垣淵之隱庭

意者雖念直不相鴨

伏雖死

今本。伏以死と云。うてあねもと訓され。其三字はかく文とあり。め

明日香川

此所。石走。冠。トホキコロハオモエマナモ。石走ハ川石を

汝名羽不謂

飛鳥川水往増弥日異戀乃増者在勝申目

此ハ所。或人。雲。よつまのむらうり。と續

真薦薊大野川原之

所。野をやの。と。大。さ。き。の

水隱

恋来之妹之

惡水木之山下動逝水之時友無雲

時無ハ。常。コヒ。カモ。

愛八師不相子故

今本。と君故と云。と。ま。裳。と。ま。女。の。よ。め。と。云。は。女。の

上之三の句までついで
序ありと云ふべし
いそハ二の句と末
心を通りしと云ふ
古の序に云ふこと
あり。且石走ハ冠
と云ふ。俗にも多
く二句の小と云
はる。

伏雖死。今本。伏以死と云。うてあねもと訓され。其三字はかく文とあり。め
明日香川。此所。石走。冠。トホキコロハオモエマナモ。石走ハ川石を
汝名羽不謂。此ハ所。或人。雲。よつまのむらうり。と續
飛鳥川水往増弥日異戀乃増者在勝申目。此ハ所。或人。雲。よつまのむらうり。と續
真薦薊大野川原之。此ハ所。野をやの。と。大。さ。き。の
水隱。此ハ所。野をやの。と。大。さ。き。の
惡水木之山下動逝水之時友無雲。時無ハ。常。コヒ。カモ。
愛八師不相子故。今本。と君故と云。と。ま。裳。と。ま。女。の。よ。め。と。云。は。女。の

今本きて「い」きと訓し、後の句ふかきと「い」の
古事記。其後田毘古神坐阿邪訶神名式伊勢國壹志郡阿射加神社と云
紀神武天皇。到吉野河之河尻時。作筥有取魚人。云名謂贊持之子。此者阿陀之
八名八梁之石見国人。山川と云。て寒く。その水は集く。所の
枕を打つ作るとしてやま打といふ。かしてやま打の
玉蜻。石垣淵之隱庭。意者雖念直不相鴨
伏雖死。今本。伏以死と云。うてあねもと訓され。其三字はかく文とあり。め
明日香川。此所。石走。冠。トホキコロハオモエマナモ。石走ハ川石を
汝名羽不謂。此ハ所。或人。雲。よつまのむらうり。と續
飛鳥川水往増弥日異戀乃増者在勝申目。此ハ所。或人。雲。よつまのむらうり。と續
真薦薊大野川原之。此ハ所。野をやの。と。大。さ。き。の
水隱。此ハ所。野をやの。と。大。さ。き。の
惡水木之山下動逝水之時友無雲。時無ハ。常。コヒ。カモ。
愛八師不相子故。今本。と君故と云。と。ま。裳。と。ま。女。の。よ。め。と。云。は。女。の

響動二 即上の越浪の沸る音と人言の多き

高山之石本瀧千 タカサキノイハモトタキチ。石本瀧千の音は名も無

而雖死 テシヌトモ

隱沼乃 コモリヌノ 下尔恋者飽不足人尔語都可忌物乎 下はさきよ念う。隠沼乃の音は名も無

水鳥乃 ミツトリノ 鴨之住池之下樋無爵悒君 オホニモキミ。下樋無池の底のねがはつゝかたを定る

今日見鶴鴨 ケフミツルカモ

玉藻川 タマモカハ 井提乃 イデノ 四賀良美薄可毛 シカハラミウサカモ

井提乃 イデノ 右より 右より 井提乃 イデノ 厚き 厚き 井提乃 イデノ 厚き 厚き 井提乃 イデノ 厚き 厚き

井提の イデノ

恋乃余杼母留 コヒノヨドモル 诸の古書 今や女留と云は保あつゝの事よまほし

吾情可聞 ワカコロカモ 可毛 可毛 可毛 可毛 可毛 可毛 可毛 可毛

吾妹子之笠乃借手乃 ワキモコガカサノカテノ 和射見野尔 ワサミノ

吾者入跡妹尔告 ワレハイリストイモニツガコラ 旅 旅

数多不有名乎霜惜三 アエタアラヌナラシモラシミ 身一 身一 二行 二行 名 名 有 有 名 名 有 有 名 名 有 有

埋木之 ウモシ 下 下 從 從 其 其 恋 恋 去 去 方 方 不 不 知 知 而 而

和射見野尔 ワサミノ

去方不知而 ユクヘシラズテ

和射見野尔 ワサミノ

井提の イデノ

井提の イデノ

神代紀を疾風と波也
知れども外にあら
らば音の通りなり

冷風之。シカゼノ けつちふおぼつちふ。しんじの古言あり
千江之浦回乃。チエノウラマヘノ 千江の

後者雖不知。チハミラネド 後者雖不知
木積成。コヅミナス 木積成。木積成。心者依

白細布乃。シロタヘ 白細布乃。白細布乃。古言あり。上

之黄土色出而。ハニフノイロニデ 之黄土色出而。不云耳衣

風不吹浦尔浪立無名乎毛。カゼフカヌウラニニシタシナナラモ 風不吹浦尔浪立無名乎毛

吾者負香逢者無二。ワレハオルカアトハナシニ 吾者負香逢者無二

醉蛾島之夏身乃浦尔。スガシミノナリニ 醉蛾島之夏身乃浦尔

依浪間文置吾不念君。ヨルシノアテモオキラキモハナクニ 依浪間文置吾不念君

淡海之海奥津島山奥間経而。アヲミノミオキツシマオクニヘテ 淡海之海奥津島山奥間経而

我念妹尔。ワカモアイモニ 我念妹尔。我念妹尔

霰零。アサヒリ 霰零。遠津大浦尔。縁浪縦毛依十方憎不有君

木海之名高之浦尔。キウミノノナタカノウラニ 木海之名高之浦尔

依浪音高鳧不相。ヨルナシラオトカキカモアハナ 依浪音高鳧不相

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

子故尔。

牛窓之

備前國今も志の浪乃塩左猪島響

浪乃塩左猪島響

湖のさざ波の響を人言ふ所依

之君尔。

今むの別をさるる所依とわたり

不相鴨將有。

奥波邊浪之來縁左太能浦之

貞浦和泉今在る出雲

此左太過

而

左太ハ定の言も上の事曾左太多す所よりこの言い入る人より

後將恋可聞

再のハ浪さるる所より

白浪之來縁島乃荒磯尔毛有申物尾恋乍不有者

かくもつうい

塩満者水沫尔浮細砂裳

塩の沫のめく浮ぶるる所より

吾者生鹿

生も鹿もかろ字

恋者不死而

住吉之城師乃浦箕尔

浦備濱備ともハ浦箕の箕

布浪之

數妹乎重見因欲得

備の邊いへも備の方の意

浪さる

風緒痛甚振浪能

浪の振るるる

間無吾念

君者相念盃香

奈美乃保乃伊多夫良思也與伎曾比登里宿而

大伴之

三津乃白浪間無我恋良苦乎人之不知久

大船乃

絶多經海爾重石下

和名抄ハ四声字宛云海中以石駐舟日礙

何如為鴨吾恋將止

和名抄ハ鴨鳩美佐古鴨屬也好在江邊山中亦食魚者也

水沙兒居奥鹿磯尔

和名抄ハ鴨鳩美佐古鴨屬也好在江邊山中亦食魚者也

也

和名抄ハ鴨鳩美佐古鴨屬也好在江邊山中亦食魚者也

或ハ鹿と故ハ静

或本哥曰中中尔君
三不恋波留鳥浦之
海部尔有益男珠
藻川也

縁浪往方毛不知吾恋久波
右下從其恋往方不知而

大船之舳毛艦毛依浪依友吾者
彼人より言はく人よらんをさるるを

大海二立良武浪者間將有公二恋等九止時毛梨
オホウミニタラハナミハヒモアラハキミニコララクヤムトキモ

中中二君二不恋者救浦乃
白水郎有申尾玉藻川管
ナカクニキミニコロズハヒラウラノ近江の
オハラニシラタニモカリツケ

牡鹿海部乃
火氣燒立而燎鹽乃辛恋毛吾為鴨
シカノアノノ上ノナマリヤキクテヤクニホノカキキモハスルナ

鈴寸取
記上上為釣海人之口
海部之燭火外谷不見人故恋比日
スズキツル記上上為釣海人之口
アノノトキビヨエダニミヌヒトヨミルコロ

湊入之葦別小舟障多見
吾念公尔不相頃者鴨
ミナトイリノアシワテヲフネサリオホミ
ウガモラキミニアハスコロ

庭淨
人万名を庭よく清くしつるがめくもふんよもも別べけ
ニキヨミ人万名を庭よく清くしつるがめくもふんよもも別べけ
オキヘニキ

出海舟乃執梶間無恋為鴨
水手船之名者謂手師
イセアミブネノカナトレニナクヨモスルカモ
コクフネノナハイヒテシ

味鎌之
塩津乎射而
此所要未勘國と注せ
シホツヲオナチ
是も所の名く近江今も塩津

平不相將有八方
相毛怪ても相
次の巻お住吉之妻は之浦乃名昔藻之名者告而之乎不
ラアハガラシヤモ次の巻お住吉之妻は之浦乃名昔藻之名者告而之乎不
相毛怪ても相

平不相將有八方
相毛怪ても相
次の巻お住吉之妻は之浦乃名昔藻之名者告而之乎不
ラアハガラシヤモ次の巻お住吉之妻は之浦乃名昔藻之名者告而之乎不
相毛怪ても相

大舟尔葦荷刈積四美見似裳

オホフネニアサニカリツミシミモモ
オホ船と倉の積り
巻五小舟

妹心尔乘

來鴨

ケルカモ 鴨がのりよる川よ我ん乗る在を
そののり多きとて葦荷刈り

驛路尔引舟渡

ハニニギニヒキフネアサニ
やうまのや宇の約め由らばゆまととらそ
麻牧令よ水
馭不配馬処量閑繁
行入の馭別置船四隻以下二隻以上在る

直乘尔

タビノリニ
ハニニギニヒキフネアサニ
妹情尔乘來鴨

吾妹子不相久馬下乃

ワキモコニアハテヒキモウニシモノ
阿倍橘乃
味物の甘橘といふ是
コケムス
即今あつ橘のゆゑ

右

薩ハ日親といふ日親は奥山の本子生く
橘ちぢの里ハ本ハはさきいふ年久
一きよのゆまの何れもいふ多一あへ橘は
控ちぢの字とゆふはさきより

南敵の橘も遷都のまよりまうと後ハ橘
ちぢの里ハ本ハはさきいふ年久
一きよのゆまの何れもいふ多一あへ橘は
控ちぢの字とゆふはさきより

味乃住

アサノミ
あつ鬼のまを中う味村
渚沙乃入江之
神名式ハ紀伊国有田郡
須佐神社名神大新
巻目次

荒磯松我乎待兒等波但一耳

アハシノマツ
荒磯松
我乎待兒等波但一耳
ハニニギニヒキフネアサニ

吾妹兒乎聞都賀野邊能

ワガモコヲキキツガノベノ
神功皇后紀仁徳天皇紀ハも菟餓野と申
けのふと申して妹が人とす佳といひせり

歡木

今ハ神むの木と枝も葉も志ち
この今がよさういふ神むと別ハ
今時々の名
あつ鬼のまを中う味村

浪間從所見小島之

ナミミヨリミユルコジノ
備前紀伊の地名をわけて
巻五の浦のさうま
浪間

濱久木

ハニニギニヒキフネアサニ
告野
久木
久成奴君尔不相四手

久成奴君尔不相四手

ヒサナリヌキミニアハマシテ
久成奴君尔不相四手

吾者隠不得間無念者

ワレハヒキフネアサニ
無念者
わが隠不得と申

浪間從所見小島之

ナミミヨリミユルコジノ
備前紀伊の地名をわけて
巻五の浦のさうま
浪間

濱久木

ハニニギニヒキフネアサニ
告野
久木
久成奴君尔不相四手

久成奴君尔不相四手

ヒサナリヌキミニアハマシテ
久成奴君尔不相四手

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

未訪國と云

朝拍アキガハ 尉ウラ 閨ヤカハ 八河邊ハカハ 之ノ

列リキ 公キミ 秋拍潤アキハツ 和川ワカハ 邊ヘ 細竹ホソタケ 目メ

小竹コタケ 之ノ 眼笑メノ

小竹コタケ 之ノ 眼笑メノ

思オモ 而ニ 宿者ヨクシヤ 夢ユメ 所見シヨケン 來キ

思オモ 而ニ 宿者ヨクシヤ 夢ユメ 所見シヨケン 來キ

思オモ 而ニ 宿者ヨクシヤ 夢ユメ 所見シヨケン 來キ

小竹コタケ 之ノ 眼笑メノ

小竹コタケ 之ノ 眼笑メノ

空事カラコト 文モノ 所緣シヨエン 之ノ 君キミ 之ノ 辞ハジメ

空事カラコト 文モノ 所緣シヨエン 之ノ 君キミ 之ノ 辞ハジメ

鴛鴦ウヰウヰ 將待シヤウテイ

鴛鴦ウヰウヰ 將待シヤウテイ

月草ツキクサ 之ノ 借有命カカリタリ 在人乎ヒトノヲ

月草ツキクサ 之ノ 借有命カカリタリ 在人乎ヒトノヲ

王之御笠オノミノ 縫有ヌイハル

王之御笠オノミノ 縫有ヌイハル

管雖看ツクミシレド 有ア 事無吾妹コトナキワジモ

管雖看ツクミシレド 有ア 事無吾妹コトナキワジモ

管根之ツクミネ 勲妹ネモコロイモ 戀西益ニゴヒセ

管根之ツクミネ 勲妹ネモコロイモ 戀西益ニゴヒセ

吾屋戶ワガヤド 之ノ 穗ホ 葵カデ 古幹フル 採生カラツミ 之ノ

吾屋戶ワガヤド 之ノ 穗ホ 葵カデ 古幹フル 採生カラツミ 之ノ

待マテ

待マテ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

○思字と暮一まよて三むでよハ即ハ次ハハ末ハ

足檜之山澤回具乎採將去

卷七 為君山田之沢惠具採跡雪消之水尔裳裾所沾

久和為とりし物も似し葉も根もいしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

て芋の味もあつし葉も根もいしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

もいしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

日谷

毛相將

都人のあまつしき雪氷をけりし所よりあつしき野

母者責十方

いふ人ハハコトモよハのち

奥山之石本管乃根深毛

末の合妻といふはさきこねては蘆の葉

所思鴨吾念妻者

のま

蘆垣之中之似兒草

垣の内の子はさきこねては蘆の葉

あつしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

人尔所知名

鳥尔陀底屢制羅我爾古弥奉曾てすも日一もあつしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

紅之冠 淺葉乃野良尔 苜草乃束之間毛 吾忌渚菜

りあつしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

為妹壽遺在 苜薦之念乱而應死鬼乎

いもが多イチチノコセリカリコモノオモヒシテニヌキモノヲ

三島江之

島下郡三島鴨神社あり

平婆公者念有來

アシヒキノヤニタチノイロニイデ

足引乃山橘之色出而

山橘の名を履せしむるは赤くはさきこねては蘆の葉

のりあつしき芋もあつしはさきこねては蘆の葉

吾恋南雄人目難為

名。今や八月... 別... 人の...

葦多頭乃。颯入江乃。白管乃。知為等。乞痛鴨。知の上將字...

○乞の惜字は... 女のおも... 且存... 乞痛鴨...

吾背子尔。吾戀良久者。夏艸之。薊除十方。生及如。○廻者之恋乃...

友生布如... 足常小豆無... 天明天皇... 五柴原能...

道邊乃。五柴原能。大明其本... 權乃... 大原之此市...

何時毛。何時毛。人之將。縱言乎。思將待。小管乃。笠平。不着而來...

吾妹子之。袖乎。憑而。真野浦之。小管乃。笠平。不着而來...

來有。真野池之。小管乎。笠尔。不縫為。而人之遠名乎。可立物可...

刺竹。齒隱有。吾背子之。刺竹の刺... 浅篠... 人目と...

○依はら依の畧須ハ
志奴の約して浅篠

伊勢乃白水郎之朝魚夕菜尔イセノアキナヲナニ 潜云カクシテ

鰻貝之獨念荷指天アヒノカヒノカタモヒニシテ

人事乎繁跡君乎鷄鳴ヒトコトヲシガシトキミヲウツラタ 人之古家尔ヒトノフルヘニ 相語而遣オタラヒテヤリ

都ツ 旭時等アカトキト

縦惠也思獨宿夜者開者雖明ヨシユヤヤシヒトリヌルヨハ 雞鳴成カキナリ

大海之荒磯之渚鳥オホウミノアリソノノスドリ

念友念毛金津オモトモオモモカネツ 足檜之山鳥尾之永此夜アシヒキノヤマドリノオモモカネツ

足日木乃山鳥之尾乃四垂尾乃アシヒキノヤマドリノオモモカネツ

將宿ネム 長永夜乎ナガユキヨ 見卷欲乎不所見公可問ミマクホシキヲミエヌキミカモ

里中尔鳴奈流鷄之サトナカニナクナルカケノ 喚立而甚者不鳴ヨビタチイタハオカズ

或ハ臣カハ 隱妻羽毛カモリヅミハモ

...

...

...

...

...

...

...

今... 却て... 渚...

...

音の契約をいじり
—もおのづからたけ
はとほきのつまされ
とやゆり。

侶も解你。

高山尔高部左渡

高山尔高部左渡 山のそとわしつちあきまてま一回一敷きも群く山を渡りしもの

高尔

高尔 高く遠くふと公があそびのり同遠き言ハヤ保幾の中保の約

余待公乎待将出可聞

余待公乎待将出可聞 待つけんふ

伊势能海從鳴來鶴乃

伊勢能海從鳴來鶴乃 伊勢能海に鳴る鶴の

音柁你毛

音柁你毛 今音柁 侶も解

君之所聞者吾将恋八方

君之所聞者吾将恋八方 君が聞く所は吾が恋する八方

吾妹兒尔恋尔可有牟奥尔住鴨之浮宿之

吾妹兒尔恋尔可有牟奥尔住鴨之浮宿之 如を 安雲無 鴨の浮

可旭千鳥數鳴色細之

可旭千鳥數鳴色細之 今か白細と色を色細と鳴りつと色をのまら近きま

君之手枕未厭君

君之手枕未厭君 今かこのよ同きと標せしと既りあかん万をち集のまらかり

眉根搔鼻火紐解待八方何時毛将見跡恋来吾乎

眉根搔鼻火紐解待八方何時毛将見跡恋来吾乎 妹がこく来て

今日有者

今日有者 上の火今か 眉可由見思

之言者君西在来

之言者君西在来 鼻火鼻之火 之小標

音耳乎聞而哉恋犬馬鏡目直相而恋卷裳大口

音耳乎聞而哉恋犬馬鏡目直相而恋卷裳大口 上相見而ハ

此言乎聞跡哉

此言乎聞跡哉 今か今か聞跡乎とハ

真十鏡照月夜裳闇耳見

今か今か同き
は累載といふ
集し人々集ハ別
といふ人のほり

今かこのよ同きと標せしと既りあかん万をち集のまらかり

鼻火鼻之火 上の火今か 眉可由見思

今か今か聞跡乎とハ

二三動鳴成鷄

〔卷三〕照日と圓月見月夜を圓くなり。十時を過ぎ、かくてその日の足て夜の夢なり。けをばぐてのこゝろをこゝろと云ひて、照月も雲の影のこゝろをこゝろと云ひて、表裏おもひなり。

吾妹兒爾恋而為便無三白細布之袖反之者夢所見也 月の約

ちんちん袖を打ち返してわまは、夢の中うへんまをさして洗の
まをせとておもひも夢におもひ返さるひつやと向ふなり。
ワカセコガワテカスヨノインナラシモトモキニ又リシガゴト 下の夢も白細布之

吾昔子之袖反夜之夢有之真毛君尔如相有 袖折反恋者香妹之

容佛乃夢三四湯流とよみなり古今もあまのいせをめぐくをき時へぬむものよけ衣と
かへて不ぬとよみあふ上のちの二の夕のきくけいも本よりのたけとよきと
を探の附よをさるるもそのりりかへん

吾戀者名草目金津真氣長夢不見而年之經去礼者 ワカセハナクサノカネツニケカグインニミエズナトレノヘマレ

真氣永夢不見雖絶吾之片恋者止時毛不有 マケカグインニミエズカタコヒハヤムトキモアラズ

浦觸而物魚念 ウラブレテモノナオモハ 借字も常形なり ズクモノクエタフコロワガモハナクニ

天雲之絶多不心吾念魚國 ツクモノクエタフコロワガモハナクニ

浦觸而物者不念水無瀬川有而毛水者逝云物乎 ウラブレテモノハオモハズナセガハアリテモミツハユクトラモノヲ

垣津旗開沼之管乎 カキツダサキヌノスゲヲ 添下郡佐伎高野ハも一と出でる沼も沢もをい
るん、咲きよまを白つ、〔卷三〕とて、あ
、咲はよまを花見とてつづるも、さ

來 来 カサニヌヒキムヒヲニツニトシグニキ

笠尔縫将著日乎待尔年曾經去 カサニヌヒキムヒヲニツニトシグニキ

臨照 難波管笠置古之後者誰将著笠有魚國 オシテリナニハスガサオキエシノチ、タガキムカサナクニ、この年を種まき、

如是谷裳君乎待南 カクダニモキミヲマチナム あづか、君乎とて、妹、うととす、サヨフケテイデルツキノカククニデニ

木間從移歷月之 コノミヨリウツロウツキノ 影惜徘徊尔 カゲヲシタミヨヒレニ

本のあづか、うとりの、月のり、うとりの、人、か、風、流、ち、う、方、あ、つ、て、ハ

或^{ウチ}にさうしつめけりて候^{マシ}さぞのめくさそまゝのやうな
のうらみかゝるいふに候^{マシ}さ人の終を^{マシ}はたし^{マシ}候^{マシ}候^{マシ}後^{マシ}よみ。 **左夜深去家里。**

拷^{ウチ}領^{マシ}巾^{マシ}乃^{マシ}。 **白濱浪乃。** ^{直まは後} **不肯縁荒振妹尔恋乍曾**

居^{マシ}。 一云、戀流已呂可母。

加^カ敝^{マシ}良^{マシ}末^{マシ}尔^{マシ}。 **君社吾尔拷領巾之白濱浪乃縁時毛**

無^{マシ}。

念^{オホ}人^{マシ}將^{マシ}来^{マシ}跡^{マシ}知^{マシ}者^{マシ}。 **八重六倉。** ^{荒れ} **覆庭**

尔^ニ。 ^{今中} **覆を這** ^{或人} **八重六倉** ^覆 **小屋毛妹與居者。** ^{今中} **玉敷有家毛何將為八重六倉覆小屋毛妹與居者。**

珠^{タマシ}布^{マシ}益^{マシ}乎^{マシ}。

玉敷有家毛何將為八重六倉覆小屋毛妹與居者。

如^カ是^{マシ}為^{マシ}乍^{マシ}。 **有名草目手。**

緒^ヲ之^{マシ}。 **絶^ク而^テ別^ル者^{マシ}為^ス便^ニ可^ク無^シ。** ^切 **可行所念**

紅^{ベニ}花^{ハナ}西^ニ有^リ者^{マシ}。 **衣袖尔深著持而。** ^持 **可行所念**

奧^{ウラ}。 **紅之花西有者衣袖尔深著持而。可行所念。**

○こゝの譬喩とるも遣人のさげさてきたのちも全と譬喩ハガハ。玉緒之父栗

縁^エ乍^{マシ}未^{マシ}終^{マシ}去^{マシ}者^{マシ}不^レ別^ル。 **同緒將有。** **級寸八師。** **不吹風故。** **玉匣用而左宿之。** **吾其悔寸。** **兵監**

之^ノ。 **八塩乃衣朝且穢者雖為益希將見裳。** **標を** **紅之深染乃衣乎下著者人者見久尔仁寶比將出鴨。**

紅之深染乃衣乎下著者人者见久尔仁寶比將出鴨。

○こゝの譬喩とるも遣人のさげさてきたのちも全と譬喩ハガハ。玉緒之父栗

縁乍未終去者不別同緒將有級寸八師不吹風故玉匣用而左宿之吾其悔寸兵監之八塩乃衣朝且穢者雖為益希將見裳

今わをとてん
やうと判し
てん

山も日影も浅茅もほろ
るふ志免ゆはま
國 既、史一の別記より
紅毛の心ありぬ我
心毛 他人の心
人引目八面吾莫名

三島管未苗在時待者
不著也將成三島管笠

三吉野之水具麻我管乎
不編尔

持来不敷尔伊州持来而置而吾乎今偈
将乱跡也

河上尔洗若菜之流来而
妹之當乃瀨社因目

如是為哉猶八成牛鳴
大荒木之浮田之杜之

助祥のま牛鳴とものま
オホアラキノウキタノモリノ
神名式よ大和国
宇智郡荒木

式よ荒木とて大と
小治田と式よ治田神社
とありはるん

神社あり今も此神社をこの今井邸といふ
是又山城大荒木の表とて技を
標尔不有尔
大荒木杜の標

幾多毛不零雨故
吾背子之三名乃幾許瀧毛動響二

イクバクモフラスアメ
ワガセユガミナノコバクタギモト、ロニ

新宮之穴

